

## 平成25年度 施政方針

### 協働による秋川渓谷観光を推進

### 豊かな自然環境と歴史や文化をPR

平成25年第1回市議会定例会において、2月27日に白井孝市長が発表した施政方針の内容をお知らせします（原文を基に掲載）。

私は、市長就任以来、市民参加による協働のまちづくりを基調とした市政運営に取り組んでまいりました。地域懇談会など、市民の皆様との意見交換を通して、市民ニーズが社会資本の整備や行政サービスの充実から、安全・安心の提供に変化しているのを感じております。市民の抱える不安や地域の課題は何かあるのか、現場に出なければその声を聞き理解することはできません。まちづくりの主役である市民と一緒に汗をかき、知恵を絞ることで、市民との協働をさらに促進し、また、行政改革を継続することで、財政基盤の強化を図りながら、将来を見据えた魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。さて、昨秋以降、市の

西部地区で続いたツキノワグマの出没は、人と野生動物との共生について考えさせられるきっかけとなりました。地域住民の安全を第一に、苦渋の対応をいたしました。種々の保存の観点から「すみわけ」を図ることが重要であります。これを契機に森の子コレンジヤが実施したヤマグリ苗木の植樹は、野生動物との共生への小さな一歩ではありますが、あきる野市の未来を担う子どもたちが自ら考え、行動に移したことに大きな意味があり、将来に向けた多くの可能性を感じ

じたところでありました。魅力あふれるまちづくり

あきる野市には、秋川渓谷の清流、四季折々の表情を見せる山々など、豊かな自然環境と、まさに活気をもたらすふるさとの祭り、郷土芸能など、先人が残してくれた素晴らしい歴史・文化があり、これは郷土の財産であります。昨年、産業の底上げを目的に立ち上げました地域経済活性化本部では、産業振興に関わる各方面の方々から、さまざまなご意見をいただいております。とりわけ、観光振興につきましても、地域活性化の特効薬として活発な議論をいただいているところであります。また、観光推進協議会と連携して、「おもてなし」をキーワードにした事業を展開してきたほか、東京のふるさとあきる野の素晴らしさを広く情報発信する活動を強化してまいりました。そして、この取組をさらに発展させるため、地域の拠点である五日市出張所に地域活性化協働センターを設置いたします。

地域活性化協働センターは、市民、団体、事業者などと協働し、また、相互に役割を補完しながら、郷土の財産を活用した秋川渓谷の観光発展に取り組む活動の拠点にまいります。また、森林レンジャーあきる野と環境委員会自然環境調査部会の調査データなどを基にした、生物多様性地域戦略の策定や生態系を脅かす外来生物対策、郷土

3月の納期  
○市・都民税 随時期  
○国民健康保険税 随時期

の恵みの森づくり事業、ジオパーク構想の推進などについて、地域活性化協働センターを拠点に展開することで、環境施策と観光施策を連動させ、地域活性化の相乗効果を高めてまいります。



地域活性化協働センターが設置される五日市出張所

次に、本年3月末をもって五日市小学校に統合する戸倉小学校につきまして、これまで地域の皆様と活用策を検討してまいりましたが、専門的な視点を交えて検討することといたしました。戸倉小学校は、長年取り組んでいる愛鳥教育で全国にも名を馳せており、また、自然環境や地域文化を後世に引き継ぐ活動をしている戸倉地域の思いを尊重しながら、地域の発展につながる拠点となるよう取り組んでまいります。

災害に強いまちづくり

災害や不測の事態に備えた安全な地域社会づくりを進め、市民の生命と財産を保護することは、まちづく

### 環境都市あきる野



郷土の恵みの森づくりを進めよう

りの基本であります。東日本大震災を教訓とした新たな地域防災計画の下、東京都などの広域的な連携も視野に、災害に強いまちづくりを進めてまいります。昨年、地域防災力の強化と地域コミュニケーション活性化を目指した、増戸地区防災・安心地域委員会の取組が高く評価され、東京都の防災隣組に認定されました。引き続き、防災・安心地域委員会と自主防災組織の強化を進めるとともに、目標人数の確保に向けた地域防災リーダーの育成に努めてまいります。

また、災害発生時の応急体制や復旧活動を想定した、災害時応援協定の締結を積極的に進めており、今後、さまざまな分野で協力関係を築いてまいります。市内には崖地や丘陵地が多く、集中豪雨や地震などによる土砂災害への備えが必要であります。土砂災害警戒区域の指定完了に合わせ、総合的なハザードマップを作成し、全戸配布することで、防災意識の向上に努めてまいります。

### 2面につづく



観光PRツアーで参加者を迎える森っこサンちゃん